



ドキュメンタリー作家 羽田澄子 Part 2



2017年11月9日(木) - 11月19日(日)

東京国立近代美術館フィルムセンター 小ホール(地下1階)

*十三世片岡仁左衛門の記録映画『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』6部作のみ
大ホール(2階)で上映します。

◆開館と同時に、当日上映される全ての回の入場整理券を1階ロビーにて発券します。
各日の開館時間についてはスケジュール欄をご覧ください。

小ホール
定員=151名(各回入替制)
観覧券の発券=地下1階受付

大ホール▶『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』6部作
定員=310名(各回入替制)
観覧券の発券=2階受付

各回の開映後の入場はできません。

料金=一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円/

障害者(付添者は原則1名まで)、キャンパスメンバーズは無料

- ・観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- ・観覧券の発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
- ・学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- ・観覧券の発券は各回1名につき1枚のみです。



東京国立近代美術館フィルムセンター

National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



フィルムセンターは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

上映作品

ドキュメンタリー作家
羽田澄子 Part 2
Sumiko Haneda:
A Documentary Filmmaker, Part 2

小ホール

《京橋映画小劇場》第36回企画として、昨年度の第34回に続き「ドキュメンタリー作家 羽田澄子 Part 2」を開催します。第2弾となる今回は、十三世片岡仁左衛門の最晩年の至芸をゆったりと捉えた『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』6部作(1992-94年)をはじめとする、歌舞伎を題材に採った作品群を中心に、岩波映画時代の無形文化財や舞台芸術に取り組んだ作品、さまざまなPR映画やドキュメンタリー、TVシリーズ「生きものばんざい」の各エピソードなど、計23作品を12プログラムに組んで上映します。『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』6部作は、大ホールにてご鑑賞いただけます。皆さまのご来場をお待ち申し上げます。

- 年は製作年を記載しています。
- ☉=監督・演出 ☉=製作 ☉=脚本 ☉=撮影
☉=録音 ☉=音楽・音楽監督 ☉=出演
☉=解説・ナレーション
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。
- NPと付記された作品は、ニュープリントでの上映となります。



羽田澄子監督

●《京橋映画小劇場》とは

平成18(2006)年度よりフィルムセンターは、これまで教育機関のための特別映写や一部の共催事業の会場として使用されてきた小ホールを、《京橋映画小劇場》(KYOBASHI-ZA)の名のもと、年に数回、フィルムセンターの主催上映企画にも利用し、さらなる上映活動の拡充を図っています。

フィルムセンター所蔵作品の公開を中心に、外部団体との共催企画も引き続き模索しつつ、多彩な上映企画の実現を目指します。大ホール・展示室企画ともども、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

I 11/9(木)2:00pm 11/15(木)4:30pm

ちいちろう

頌 齊藤知一郎(32分・35mm・カラー)NP

1961年2月に逝去した大昭和製紙の創業者・齊藤知一郎の追悼記録映画。葬儀の記録映像と共に、若き日の知一郎の姿や昭和天皇が製紙工場見学に来た様子、静岡県立吉原工業高校に建てられた「努力の道」の石碑などが紹介され、故人の功績が称えられる。

1961 企画：大昭和製紙 | 製作：岩波映画 ☉☉ 羽田澄子 ☉ 小口禎三、坊野貞男 ☉青島一夫 ☉伊福部昭 ☉芥川比呂志

木と家(25分・35mm・カラー)NP

柱と梁の構造や仕口・継手の手法など、独特の特徴をもつ日本の木造家屋を、全国各地に残るさまざまな民家を例に取りながら、茶室や書院造、江戸の町家など歴史的な展開も交えて解説する。木が生きる長い時間に対する羽田の省察は、のちの『薄墨の桜』(1977)においてさらに発展することになる。第12回産業映画コンクール日本産業映画大賞受賞。

1973 企画：住友林業株式会社 | 製作：岩波映画 ☉☉ 羽田澄子 ☉高橋宏暢 ☉中谷英雄 ☉三木稔

鐵齋の画(32分・35mm・カラー)NP

明治から大正期にかけて活躍した文人・富岡鉄齋の絵画の世界を探究する。「蓬莱仙境図」や「蘇東坡図」など著名な絵画が、画賛や鉄齋の言葉と共に丹念に紹介される。製作を企画した清荒神清澄寺(兵庫県宝塚市)は鉄齋作品の蒐集で知られ、1975年には境内に鉄齋美術館を開設した。

1981 企画：清荒神清澄寺 | 製作：岩波映画 ☉☉ 羽田澄子 ☉下村雅彦 ☉八幡洋一 ☉久保田幸雄 ☉秋山邦晴 ☉伊藤惣一



頌 齊藤知一郎



木と家



鐵齋の画

2 11/9(木)5:00pm 11/17(金)2:00pm

EXPO'70 コンピュートピア

(23分・16mm・カラー)NP

1970年の大阪万博における古河パビリオンの展示を紹介するPR映画。同パビリオンは、東大寺にかつてあった七重塔を模して建てられたことで当時話題となり、内部では富士通社製のコンピュータを利用した未来の生活(コンピュータピア)を展示した。

1970 企画：富士通株式会社 | 製作：岩波映画 ☉☉ 羽田澄子 ☉田中平八郎、高橋宏暢 ☉河端繁

コカ・コーラのお話(15分・35mm・カラー)NP

コカ・コーラのPR映画。コカ・コーラの発明と人々への浸透ぶりが写真やイラスト、アニメーションなどで分かりやすく説明され、製造工場の様子も紹介される。アニメーションはアートアニメスタジオによる。第16回日本産業映画コンクール奨励賞受賞。

1977 企画：コカ・コーラボトラーズ | 製作：岩波映画 ☉☉ 羽田澄子 ☉藤本孝明 ☉内田収 ☉三角善四郎 ☉尾形竜平 ☉宮崎尚志 ☉横沢啓子、菅谷政子、桂玲子

日米文化交流の記録 —1983年—

(17分・16mm・カラー)NP

サントリー美術館が1983年秋にニューヨークのジャパンハウス・ギャラリーで開催した「秋草・流水」展と、同時にサントリー文化財団がジャパン・ソサエティと共同で開催した日米シンポジウム「Only Yesterday, the 1970s」の記録映画。レセプションや当時の館長・佐治敬三による記念講演などが捉えられている。

1984 企画：サントリー美術館、サントリー文化財団 | 製作：岩波映画 ☉☉ 羽田澄子 ☉下村雅彦

加齢 一肌の変化とそのしくみ—

(20分・35mm・カラー)NP

ポーラ化粧品の新製品「ルネート」の発売にあたって製作されたPR映画。年齢による肌の変化がイラストや科学実験映像を駆使して説明される。能面を用いた演出も興味深い。

1979 企画：ポーラ化粧品 | 製作：岩波映画 ☉☉ 羽田澄子 ☉下村雅彦 ☉八幡洋一

3 11/14(火)2:00pm 11/17(金)5:00pm

大田区につたわる無形文化財

(35分・16mm・カラー)NP

大田区に伝わる貴重な祭事や芸能を記録した作品。羽田にある水神社の水神祭や六郷神社のこども流鏑馬祭、獅子舞、厳正寺の水止舞などが捉えられている。

1973 企画：東京都大田区 | 製作：岩波映画 ☉☉ 羽田澄子 ☉高橋宏暢 ☉中谷英雄、八木義順

早池峰神楽の里(52分・16mm・カラー)NP

岩手県北上山地・早池峰山の麓の町に残る山伏神楽とそれを守る人々の記録。町民による募金活動にも支えられ、2年をかけて完成した。しかし羽田には伝えきれなかったとの思いが残り、続いて自主作品として3時間を超える大作『早池峰の賦』(1982)を完成させることとなる。

1981 企画：映画「早池峰神楽の里」をつくる会 | 製作：岩波映画 ☉☉ 羽田澄子 ☉工藤充 ☉西尾清、瀬川順一、若林洋光、西山東男、田代啓史、内藤雅行、下平正巳、千葉寛 ☉久保田幸雄 ☉秋山邦晴 ☉川久保潔



日米文化交流の記録 —1983年—



大田区につたわる無形文化財

4 11/14(火)5:00pm 11/16(木)2:00pm

「新日鉄アワー 生きものばんざい」は、1973年10月から1982年9月にかけて、NET(現テレビ朝日)系列局およびTBS系列局において、日曜午前に放映された30分枠の教養番組(全466話)。各回、さまざまな生き物の生態や人間との関わりが描かれる。羽田は6話分の演出を担当したが、それらのうち27話「モンシロチョウの恋」、51話「流れ藻 運命の乗合バス」、59話「奇魚! 魚を釣る魚」、65話「モンガ 赤ちゃん日記」を上映する。

生きものばんざい モンシロチョウの恋
(26分・16mm・カラー)NP

1974 制作:毎日放送、岩波映画 羽田澄子 内藤完七、福島継一、河田佳三 関晴夫、岡田久 佐久間俊夫 牧野由多可 石坂浩二

生きものばんざい 流れ藻 運命の乗合バス
(26分・16mm・カラー)NP

1974 制作:毎日放送、岩波映画 羽田澄子 内藤完七、福島継一、河田佳三 並木菊雄、谷口常也、加藤孝、成瀬慎一 佐久間俊夫 牧野由多可 石坂浩二

生きものばんざい 奇魚! 魚を釣る魚
(26分・16mm・カラー)NP

1974 制作:毎日放送、岩波映画 羽田澄子 内藤完七、福島継一、河田佳三 並木菊雄、谷口常也、草間道則 岡本光司 牧野由多可 石坂浩二

生きものばんざい モンガ 赤ちゃん日記
(26分・16mm・カラー)NP

1974 制作:毎日放送、岩波映画 羽田澄子 内藤完七、広橋育治、河田佳三 中谷英雄、喜瀬昭生 岡本光司 牧野由多可 石坂浩二

5 11/10(金)2:00pm 11/16(木)5:00pm

岩波ホール演劇シリーズ第二回公演

東海道四谷怪談(93分・16mm・カラー)NP

1976年6月に岩波ホールで上演された「東海道四谷怪談」(武智鉄二演出、落合清彦脚本)の舞台記録。伊右衛門役に中村扇雀(現・四代目坂田藤十郎)、お岩・小佛小平・お熊の三役に白石加代子、直助権兵衛に伊藤藤之助(途中から東屋源喜の代役で喜悦も務めた)、お梅に川口小枝が配られている。

1976 企画:岩波ホール 製作:岩波映画 羽田澄子 三角善四郎、中谷英雄、大洞陽佑

6 11/10(金)5:00pm 11/15(水)1:30pm

歌舞伎の魅力 菅丞相 片岡仁左衛門 一義太夫狂言の演技
(36分・16mm・カラー)

「菅原伝授手習鑑」の通し上演(1981年11月)を機に国立劇場が企画した作品。「義太夫の素養のある役者」である十三世片岡仁左衛門が菅丞相を演じるさまを、絵巻物や文楽公演のフッテージ等を交えつつ描く。この作品における羽田と仁左衛門の出会い、後の『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』6部作へとつながる。昭和57年度芸術祭優秀作品賞受賞。

1982 企画監修:国立劇場 製作:岩波映画 羽田澄子 藤瀬季彦 西尾清、大洞陽佑 片岡仁左衛門、片岡我當、片岡秀太郎、澤村宗十郎、實川延若、中村富十郎、坂東玉三郎

歌舞伎の魅力 音楽 おさん 茂兵衛 大経師 音 暦にみる
(35分・16mm・カラー)

歌舞伎の舞台における音楽の役割と、歌舞伎役者にとっての音楽の素養の重要性が、六世中村歌右衛門が阿古屋を演じ、三味線・胡弓を弾く「壇浦兜軍記」や七世中村芝翫がおさんを演じる「大経師音暦」の記録映像と共に解説される。昭和60年度文化庁芸術作品賞(短篇映画の部)受賞。

1985 企画監修:国立劇場 製作:岩波映画 羽田澄子 藤瀬季彦、桜井朝子 西尾清、中山憲一、八幡洋一、井原久夫 久保田幸雄、滝沢修 中村歌右衛門、中村芝翫、中村富十郎、市川海老蔵、中村福助、中村松江、竹本文春太夫、竹本綾太夫 大方斐紗子

歌舞伎の魅力 新歌舞伎
(34分・16mm・カラー)NP

明治後期から昭和初期にかけて、特定の劇場に専属していない作家たちが創作した新歌舞伎が、歌舞伎の歴史にどのような新しさを加えたかが、坪内逍遙作「牧の方」と長谷川伸作「一本刀土俵入」の舞台記録映像、さらには稽古の様子や、役者や作家へのインタビューなども交えながら解説される。

1986 企画監修:国立劇場 製作:岩波映画 羽田澄子 藤瀬季彦、桜井朝子 西尾清 久保田幸雄 鈴木治彦 中村歌右衛門、中村勘三郎、尾上梅幸、村上元三、郡司正勝



7 11/11(土)11:00am 11/18(土)11:00am

歌舞伎役者 片岡仁左衛門 若鮎の巻
(100分・16mm・カラー)NP

『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』6部作(1992-94)は、十三世片岡仁左衛門(1903-1994)に魅せられた羽田監督が、その芸や芸談を残すため、1987年から仁左衛門が亡くなる1994年までの長期にわたって撮影した作品である。第一作の本作は、上方歌舞伎若手役者の勉強会として1980年から1989年まで年に1度の公演が行われた「若鮎の会」の8回目(1987年)の様子を捉える。「一条大蔵譚」と「傾城反魂香(吃又)」の稽古風景から本舞台の上演までが映し出され、半濁音の発音の仕方のような細部にまでわたる仁左衛門の指導ぶりを知ることができる。

1992 企画:仁左衛門の芸談をきく会 製作:自由工房 羽田澄子 工藤充 西尾清 栗林豊彦 滝澤修 片岡仁左衛門、片岡我當、嵐徳也、嵐三、尾上世太郎

8 11/11(土)2:00pm 11/18(土)2:00pm

歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 上巻
(94分・16mm・カラー)NP

「人と芸」は仁左衛門84歳から88歳までの4年間にわたり芸談、舞台、生活を記録したものである。本作は、84歳となる1987年に出演した「伊賀越道中双六」(6月)、「紙子仕立両面鑑」(10月)、「寿曾我対面」(12月)それぞれの上演の様子を中心にまとめられている。「寿曾我対面」は京都南座の顔見世35回連続出演になる記念すべき公演であった。

1992 企画:仁左衛門の芸談をきく会 製作:自由工房 羽田澄子 工藤充 西尾清、瀬川順一、内藤雅行、柳田義和 滝澤修 片岡仁左衛門、片岡秀太郎、片岡孝夫、片岡我當、實川延若、中村福助、中村扇雀、中村富十郎、中村雀右衛門、伊藤友久

9 11/11(土)4:30pm 11/18(土)4:30pm

歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 中巻
(101分・16mm・カラー)NP

仁左衛門85歳となる1988年が記録されている。前年末の顔見世に続く1月の「寿曾我対面」、2月の「菅原伝授手習鑑」、5月の「妹背山婦女庭訓」の上演の様子が伝えられる一方、23歳のときにまとめた短篇集の話、乗り物好きなこと、片岡家のお盆など舞台以外の仁左衛門を知ることができる。

1992 企画:仁左衛門の芸談をきく会 製作:自由工房 羽田澄子 工藤充 西尾清、瀬川順一、内藤雅行、柳田義和 滝澤修 片岡仁左衛門、中村福助、片岡秀太郎、尾上梅幸、市村羽左衛門、秋山加代、中村吉右衛門、中村芝翫、玉木里春

10 11/12(日)11:00am 11/19(日)11:00am

歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 下巻
(110分・16mm・カラー)NP

1988年から1991年の「芸談をきく会」で語られた芸談を中心に、家族インタビューで子供たちから見た仁左衛門の姿や、仁左衛門歌舞伎の立ち上げを回想する夫婦の談話、視力を失い病に倒れながらも演じた南座での「堀川波の鼓」や「菊仙」など、芝居一筋に生きる仁左衛門の姿が多面的に捉えられる。

1992 企画:仁左衛門の芸談をきく会 製作:自由工房 羽田澄子 工藤充 西尾清、瀬川順一、内藤雅行、柳田義和 滝澤修 片岡仁左衛門、片岡我當、片岡秀太郎、片岡孝夫、片岡静香、片岡喜代子、伊藤友久、尾上梅幸、中村松江、中村富十郎、片岡我當

11 11/12(日)1:40pm 11/19(日)1:40pm

歌舞伎役者 片岡仁左衛門 孫右衛門の巻
(86分・16mm・カラー)NP

1989年10月の歌舞伎座「恋飛脚大和往来」の稽古と舞台の様子をふんだんにおさめ、前年の星野源一写真集『風姿 歌舞伎役者・十三代目片岡仁左衛門』出版時に行われた仁左衛門一家のインタビューから、舞台に打ち込む一家の姿を一気に見せる。

1992 企画:片岡仁左衛門の芸談をきく会 製作:自由工房 羽田澄子 工藤充 西尾清、宗田喜久松 滝澤修 片岡仁左衛門、片岡孝夫、中村雀右衛門、片岡我當、市村吉五郎、片岡我當、片岡秀太郎

12 11/12(日)4:00pm 11/19(日)4:00pm

歌舞伎役者 片岡仁左衛門 登仙の巻
(158分・16mm・カラー)NP

6部作の最終作は、仁左衛門の最晩年を捉え続ける。「倭門三桐」の石川五右衛門や「八陣守護城」の佐藤正清など、90歳にしてなお初役を務める若々しい姿や、長く上演されなかった「鬼一法眼三略巻」三段目・奥庭の場を、諸先輩から受け継いだ芸を残していく責任感と共に上演する姿が映し出される。喜代子夫人をはじめ、仁左衛門を支えた女性たちの存在も印象深い。

1994 企画:仁左衛門の芸談をきく会 製作:自由工房 羽田澄子 工藤充 西尾清、宗田喜久松、佐藤和人 滝澤修 片岡仁左衛門、片岡我當、片岡秀太郎、片岡孝夫、中村扇雀、尾上梅幸、中村富十郎、市村羽左衛門、中村梅玉、片岡蓉有子、片岡静香、片岡喜代子



歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 下巻



歌舞伎役者 片岡仁左衛門 孫右衛門の巻



歌舞伎役者 片岡仁左衛門 孫右衛門の巻



歌舞伎役者 片岡仁左衛門 登仙の巻

月	火	水	木	金	土	日
11月	6	7	8	9	10	11
	13	14	15	16	17	18

小ホール		大ホール	
11:00am開館	11:00am開館	11:00am開館	11:00am開館
3 2:00pm 大田区につたわる無形文化財 他 (計87分)	6 1:30pm 歌舞伎の魅力 新歌舞伎 他 (計105分)	4 2:00pm 生きものばんざい モンシロチョウの恋 他 (計104分)	2 2:00pm ココ・コーラのお話 他 (計75分)
4 5:00pm 生きものばんざい モンシロチョウの恋 他 (計104分)	1 4:30pm 鐵齋の画 他 (計89分)	5 5:00pm 岩波ホール演劇シリーズ 第二回公演 東海道四谷怪談 (93分)	3 5:00pm 大田区につたわる無形文化財 他 (計87分)
10:00am開館	10:00am開館	10:00am開館	10:00am開館
7 11:00am 歌舞伎役者 片岡仁左衛門 若鮎の巻 (100分)	10 11:00am 歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 下巻 (110分)	8 2:00pm 歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 上巻 (94分)	11 1:40pm 歌舞伎役者 片岡仁左衛門 孫右衛門の巻 (86分)
9 4:30pm 歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 中巻 (101分)	12 4:00pm 歌舞伎役者 片岡仁左衛門 登仙の巻 (158分)	7 11:00am 歌舞伎役者 片岡仁左衛門 若鮎の巻 (100分)	10 11:00am 歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 下巻 (110分)
8 2:00pm 歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 上巻 (94分)	11 1:40pm 歌舞伎役者 片岡仁左衛門 孫右衛門の巻 (86分)	9 4:30pm 歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 中巻 (101分)	12 4:00pm 歌舞伎役者 片岡仁左衛門 登仙の巻 (158分)

■作品によって開映時間が異なりますのでご注意ください。

展示室(7階)

【企画展】

生誕100年 ジャン=ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美

Jean-Pierre Melville, cinéaste du noir
2017年9月26日(金)～12月10日(日)

*月曜日は休室

*11月3日(金・祝)は「文化の日」のため展示を無料でご覧いただけます。

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター、ノクチェルヌ・プロデュクション

協力：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ 日本、KADOKAWA、マーメイド・フィルム、PFF(びあフィルムフェスティバル)

協賛：エルメスジャパン株式会社

映画監督ジャン=ピエール・メルヴィルが生誕100年を迎える本年、フィルムセンターは、ドキュメンタリー『コードネームはメルヴィル』(2008年)の監督オリヴィエ・ポレール氏が長年収集してきた資料を中心にその孤高の生涯と業績を振り返ります。メルヴィルの“黒”の世界に触れてみてください。

*詳細は当該チラシまたはフィルムセンターのホームページをご覧ください。



ジャン=ピエール・メルヴィル、『リスボン特急』の頃 ©1972 STUDIOCANAL

【常設展】企画展に併設

NFCコレクションでみる日本映画の歴史

Nihon Eiga: The History of Japanese Film From the NFC Non-film Collection

映画の渡来した19世紀末から発展を続け、二つの黄金時代を経験した日本映画の豊かな歴史を、長年フィルムセンターが収集してきた多彩なコレクション(ポスター、スチル写真、雑誌、製作資料、業界資料、カメラなど機械類、映画人の遺品、映像など)によってたどります。日本映画史の新しい学びの場として、小学生から大人まで幅広い世代の方々を対象とする内容になっています。

(Captions in Japanese and English)

開室時間＝午前11時～午後6時30分(入室は午後6時まで)
料金(企画展・常設展共通)＝一般250円(200円) / 大学生・シニア130円(60円) / 高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)、MOMATバスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。

* フィルムセンターが主催する上映会をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

NFC Digital Gallery
NFCデジタル展示室 Digital Gallery
下記ホームページからお入りください
<http://www.momat.go.jp/fc/digitalgallery>

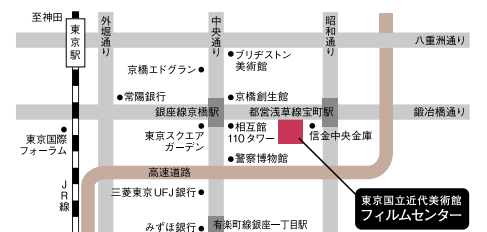
常設展ギャラリートーク

毎月第一土曜日12時より(休室の場合は第二土曜日)
11月4日

2階受付では、「NFCニュースレター」(季刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルムアーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

fiaf

東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通：

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ：ハローダイヤル03-5777-8600

NFCホームページ：<http://www.momat.go.jp/>

表紙：(上段左から)『頃 齊藤知一郎』、『鐵齋の画』、『木と家』
(中段)『歌舞伎役者 片岡仁左衛門 人と芸の巻 中巻』、工藤充氏と羽田監督
(下段)『歌舞伎役者 片岡仁左衛門 登仙の巻』、『大田区につたわる無形文化財』、『EXPO'70 コンピュートピア』